

第33回夕張川流域会議 議事要旨

日時：平成29年7月24日（月）9:00～15:00

現地視察：9:00～11:00 ハサンベツ川（NPO 雨煙別学校の自然体験学習）

意見交換：12:30～15:00 栗山町ふれあいプラザ



(講演) かわ塾と川の指導者講習 ～ 流域生態研究所 妹尾所長

- かわ塾では、子どもたちが川を学び楽しむだけではなく、川の恐ろしさを知って身を守ることや、仲間とつながること、自身の身の回りの世話なども体験してもらっている。
- 子どもは、自分で行動し何かを発見することが楽しいと感じるので、そのためのきっかけを作ってあげるのが大切である。かわ塾では、先生のように教えるのではなく、ガキ大将のように率先していっしょに体験するように心がけている。
- かわ塾を任せられるような指導者になるためには、豊富な川の経験が必要である。指導者育成のために講習を行ってきたが、今年は特に厳しい講習を行ったところである。受講生には経験を重ねてもらい、自然の川や改修された川を体感することによって、川のしくみへの理解を深めてもらいたい。
- 川のしくみへの理解が、河川の整備や管理に役立つことも期待している。

(講演) ハサンベツ里山の取り組み

～ ハサンベツ里山計画実行委員会 高橋実行委員長

- ハサンベツ里山はもともと耕作放棄地で、外来植物が茂り不法投棄でゴミだらけになっていたところを、栗山町が用地を取得して住民とともに里山づくりに取り組んできたところである。童謡で歌われている里山を目標に、人と自然の共存を目指すハサンベツ里山計画をつくり、住民が知恵、労力、資材を持ち寄ってハサンベツ里山ができた。
- 今では、たくさん子どもたちがハサンベツ里山で自然体験学習を行っている。
- 里山を流れるハサンベツ川は護岸 3 面張りの水路のような川だったが、護岸を一部撤去して川幅を広げ、魚道をつくって落差を解消したことによって、夕張川からヤマメやウグイなどの魚がたくさん上って来るようになった。
- 里山、里川の活動の中で、夕張川本川とのつながりも次第に意識するようになり、夕張川流域全体を視野に自然再生を目指す夕張川自然再生協議会をつくったところである。サケマスなどの生息環境再生を、夕張川流域で展開していきたい。

<主な意見>

(本日の視察について、講演について)

- ・ 自然体験学習のフィールドが整備されてきたおかげで、栗山町では保育園児から大人までが自然体験学習をできるようになった。NPO 雨煙別学校が主催する川の活動の参加者は年間 2000 人にのぼり、夏期はほとんど毎日どこかで川の活動が行われている。夕張川やハサンベツ川だけではなく、今後は雨煙別川などでも新たなフィールドづくりができれば、より幅広い自然体験学習ができるようになると思う。
- ・ 本日の視察では、1 年生と 2 年生では全然違う反応があり驚いた。川の経験のある 2 年生は川に慣れるのが早く積極的に行動ができていた。経験を重ねることによって、年々子どもは成長するし、その子が親になった時も自分の子どもに経験が伝わると思った。
- ・ 昨年、夕張市内で水難事故があった。子供に川の楽しさを体験させたいと思っても生半可な知識、経験では川の活動はできないものと痛感している。川の指導者育成にどう取り組むかを考えさせられた。
- ・ 子どもたちの笑顔を見て、自然と接することの大切さを感じた。
- ・ 本日は、実際に生き物に触れてその躍動感を感じた。川の学習は水槽やポンプ等の器材が必要だし、スタッフが安全監視もしなくてはいけない。そういった準備や人材が揃って活動ができることがわかった。
- ・ ハサンベツ里山は、これまで 17 年間にわたり地域住民が築き上げたものがあるが、それを守り活かすため、行政として真剣に取り組んでいきたい。川はつながっているのだから、それぞれを管理する国、道、町が地域住民と協力していかないと、川づくり、里山づくりはうまくいかないと思う。より一層、国や道と連携して取り組んでいきたい。
- ・ 河川整備計画策定後は解散する流域会議がほとんどであるが、夕張川流域会議のようにフィールドワークや講演、意見交換を続けているところでは珍しい。良い取り組みなので、今後も続けていきたい。

<主な意見>

(夕張川ダム総合管理事務所からの情報提供について)

- ・ 夕張シューパロダムは融雪出水をダムに貯めてから下流に利水放流しているため、ダム完成前と比べて4～5月の融雪出水による水位上昇が小さくなった一方で、6月の夕張川の水位は逆に30cm上がっている。魚類は長年の川の環境に適応して生息場所を選んでいるので、急な流況変化には適応できない。河川環境と利水のどちらを優先するかという問題は難しいが、河川環境が変わってしまったというのが現状である。
- ・ 融雪出水による攪乱が弱いため川原の樹林化が進んだが、樹林化した川原に水がのるようなときは、流れの弱い樹木周りに土砂が溜まり、更に樹林化と砂州の固定化を助長することにもなっている。これだけ樹林化が進み、砂州と滯筋が固定化されると治水上の問題も出てくる。ダム地点の水収支だけの説明では不十分で、ダム放流が下流に与える影響を真剣に考えて、これからどのような川づくりをするかを検討しなければならない。
- ・ 川端ダムに溜まっていた腐泥が抜水とともに流出してくることになるので、下流への影響に配慮して欲しい。

第33回 夕張川流域会議

日 時：平成29年7月24日(月) 9:00～15:00

現地視察：夕張川支川ハサンベツ川

意見交換：栗山町ふれあいプラザ

次 第

1. 集 合 9:00 栗山町ふれあいプラザ 東側 公共駐車場

※出 発 9:05

挨 拶. 江別河川事務所長 (移動車中)

概略説明. 事務局 (移動車中)

2. 現地視察 9:15～11:45

◇夕張川支川ハサンベツ川 自然体験学習視察

3. 意見交換 13:00～15:00 栗山町ふれあいプラザ

1) 講演

「かわ塾と川の指導者講習」

講師 流域生態研究所 妹尾 優二

「ハサンベツ里山の取り組み」

講師 栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会実行委員長 高橋 慎

2) 事務局より

3) 次回会議について、その他

4. 閉 会 15:00

「第33回夕張川流域会議」 委員出席者名簿

委員御氏名	所 属	備 考	出 欠
妹尾 優二	流域生態研究所長		○
野島 芳光	水土里ネット由仁(由仁土地改良区)理事長		×
諸橋 淳	おっ鳥クラブ		○
上野 千春	栗山オオムラサキの会		○
高橋 慎	栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会実行委員長		○
久保 和英	河川愛護団体 リバーネット21ながぬま		×
千葉 光弘	夕張川なんでも探検隊		×
武岡 真吾	社団法人 栗山青年会議所		○
杉本 伸二	夕張川自然再生協議会		○
濱田 暁生	ふらっと南幌		×
小松 憲幸	江別市 建設部土木事務所治水課長	代理出席：岡村 直也 (治水課治水係 主任)	○
尾暮 靖志	南幌町 都市整備課長		○
栗野 悟	長沼町 都市整備課長		○
柿崎 秀史	岩見沢市 建設部建設管理課長		○
伊藤 一廣	由仁町 建設水道課長		×
佐々木 学	栗山町 副町長・建設総括・建設水道課長	随行：西田 達也 (技術担当主幹)	○
熊谷 修	夕張市 建設課長	代理出席：佐藤 由土昌 (都市計画土木係 係長)	○
糸尾 一夫	北海道札幌建設管理部 長沼出張所長		○
山崎 英志	夕張川ダム総合管理事務所長		○
足立 文玄	江別河川事務所長		○

※敬称略

委員出席者合計＝ 15名

「夕張川流域会議」規約

(名称)

第1条 本会議を、「夕張川流域会議」（以下「流域会議」という）と称する。

(目的)

第2条 流域会議は、夕張川のあるべき姿を見据え、流域における川づくりのあり方について意見交換し、今後の川づくりに生かしていくものとする。

(組織)

第3条 流域会議は座長、副座長及び委員をもって組織する。

- 2 委員は、前年度委員からの引継ぎを基本とし、江別河川事務所長が委員名簿を作成する。
- 3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 座長、副座長は委員の互選により選出する。
- 5 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときには、副座長がその職務を代行する。
- 6 流域会議の意見交換や勉強会等のテーマによっては、関係する団体や講師の招へい及びオブザーバーの参加を認める。

(議事等)

第4条 流域会議は、座長が招集する。

- 2 座長は、流域会議の運営、審議を総括する。

(事務局)

第5条 流域会議の事務局は、江別河川事務所調査課と夕張川ダム総合管理事務所管理課に置く。

- 2 事務局は、流域会議の運営に必要な事務を処理する。

(雑則)

第6条 この規約に定めるもののほか、流域会議の運営に関する必要な事項は、座長が流域会議に諮り定める。

(附則)

この規約は平成19年10月4日をもって成立適用する。

(附則)

この規約は平成23年2月17日をもって成立適用する。

(附則)

この規約は平成28年2月10日をもって成立適用する。